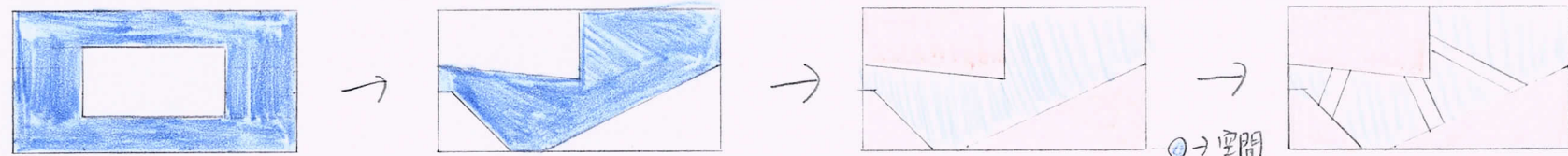


ダイアグラム

人、床 → 個体 その場に在り続けるもの
 空間 → 液体 流ゆるように移動するもの
 と置き換え、北極の氷が水に溶けていく過程をダイアグラムにした。



氷 → ●
 水 → ○

氷が溶けていく。
 水に溶け込む。

ここで床、人、空間に
 置き換える。

床同士がばらばらに
 ならないように橋をつなぐ。

外側に溶け込むために

① 入りやすい空間を目指す

道路との繋がりを大切に出来るように建物への入り口を狭くした。
 柱、ギリギリまで道路に近づけた。
 建物はほぼガラス張りであり、外から見ると「あの建物は何をあるところなんだ?」「なんで浮いて見えるんだ?」と興味を持ちたいようにした。

② 外の空間を設ける

この建物には外の空間がテラスとドライエリア、2つある。
 テラスは道路側と階段で繋がっており、普段、交通量の多い道路側との親和を取るようにした。対して、ドライエリアはあまり交通量の少ない道路側と繋がっている。これは二子玉川駅付近は人口密度が高く、ガヤガヤしているため、そちらの空間とは真逆の空間にするように、でも街に溶け込むような空間にするためだ。
 2つの異なる空間を作ることで人それぞれ使い方が出来るのではないかと。

内側に溶け込むために

① 断面的な繋がりを取る

空間部分があるので床同士が重ならないようにする。421F(上)の階で何をしているのかが見えるため、自然にコミュニケーションを取れるようにした。
 また、断面の繋がりを大切にしたいので、天井高をあまり高くしないようにした。

② 人の留まりやすい角を作る

このような形にすることで不規則に凸凹する部分が出てくる。日本人は空間の中心にいたいという傾向や、狭い場所にいること、話したい人がいるので、鋭い部分は寄りかかたり、腰をかけるのに最適だと考えた。そこでこの部分にベンチを配置した。フリースペース、コミュニティスペースだけでなく、この鋭い部分で始まる会話もあるのではないかと考えた。

敷地面積	1750.17m ²
建築面積	444.12m ²
1F床面積	208.72m ²
2F床面積	135.78m ²
B1F床面積	404.82m ²
延べ面積	749.32m ²
建ぺい率	59.2%
容積率	99.9%

